

第1回横浜市地域療育センター指定管理者選定委員会会議録	
日 時	令和5年4月28日（金）18時00分～19時47分
開催場所	市庁舎18階共用会議室さくら14
出席者	小畑淳子委員、上甲雅敬委員、森佳代子委員、吉田眞理委員
欠席者	渡辺好宏委員
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 題	<p>次第 ※議題は4以降</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員紹介</li> <li>2 選定委員会の趣旨等について</li> <li>3 地域療育センターの概要について</li> <li>4 委員長選出</li> <li>5 会議の公開について</li> <li>6 選定基準及び選定方法について</li> <li>7 選定スケジュールについて</li> <li>8 その他</li> </ol>
決定事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員長選出 互選により吉田委員を委員長とした。</li> <li>2 会議の公開について 団体の評価を行う場面は非公開とし、それ以外のプレゼンテーションやヒアリング等の場面は公開することとした。</li> <li>3 選定基準及び選定方法について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 評価方法・手段については、案（資料1）のとおりとした。</li> <li>(2) 評価基準については、案（資料2）のとおりとした。</li> <li>(3) 選定基準については、案（資料3）のとおりとした。</li> <li>(4) 現指定管理者からの提出書類については、案（資料4）に次の修正を加えることとした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様式4の別表、「(1) 苦情解決制度」について、利用件数のみでなく結果に関する記載を追加。</li> <li>・ 様式4の別表に、「医療的ケア児についての取組」の項目を追加。</li> <li>・ 様式5、「1 令和4年度に実施した研修について」に、どのような研修を実施したかのみでなく参加人数の記載を追加。</li> </ul> </li> <li>(5) 統計資料については、案（資料5）のとおりとした。ただし、学校支援事業の実施状況については、のべ回数のみではなく、可能であれば実施した実学校数等を含む資料とすること、また、後日追加の希望があれば各委員から事務局に連絡することとした。</li> </ol> </li> <li>4 選定スケジュールについて 選定スケジュールについては案（資料6）、プレゼンテーション、ヒアリングの時間配分については案（資料6-2）のとおりとした。 プレゼンテーションの手法、説明者の人数については、会場の広さなどを基に、前回の取扱いを参考として、事務局において設定することとした。</li> <li>5 その他</li> </ol>

	<p>会議録については、事務局において案を作成した上で、全委員が確認して確定することとした。</p>
議 事	<p>1 委員紹介</p> <p>2 選定委員会の趣旨等について 事務局から資料に基づき説明</p> <p>3 地域療育センターの概要について 事務局から資料に基づき説明</p> <p>4 委員長選出 互選により吉田委員を委員長に選出</p> <p>5 会議の公開について 事務局から資料等に基づき説明 意見・質疑なし (吉田委員長) 他の施設の例や前回の取扱いと同様に、団体の評価を行う場面は非公開とし、それ以外のプレゼンテーションやヒアリング等の場面は公開とすることによいか。 (全委員) 異議なし。</p> <p>6 選定基準及び選定方法について (1) 評価方法・手段について 事務局から案(資料1)について説明 【主な意見・質疑】 (吉田委員長) 第三者評価の結果のところ、(アンケート調査)とあるが、アンケート調査の結果も含むということによいか。 (事務局) 評価機関の評価結果に加えてアンケート調査の結果も提供させていただく。ただし、アンケートの内容は評価機関によって異なっている。違いはあるが、アンケート結果も含めて提供させていただきたいと考えている。 (吉田委員長) 評価機関によって少し違いはあると思うが、大きなところではほぼ同じ基準で行っていると思う。評価に当たって参考になるのではないかと思う。 評価方法・手段については、案(資料1)のとおりとしてよいか。 (全委員) 異議なし。</p> <p>(2) 評価基準について 事務局から案(資料2)について説明 【主な意見・質疑】 (森委員) 2(6)の「障害児相談支援」は、計画相談のことと捉えてよいか。 (事務局) そのとおりである。 (森委員) 障害児相談支援の対象について、現在の状況はどのようになっているか。セ</p>

	<p>ンターの児童発達支援を利用するお子さんが対象か。</p> <p>(事務局) 基本的には人員体制等の関係もあり、センターの児童発達支援を利用する方の計画については最低限対応しましょうというのが現状の取扱いとなっている。センターによっては、それに加えて診療所を利用している方などの通所支援について一部対応している場合もあるが、現状はそのような状況である。</p> <p>(森委員) センターの児童発達支援の部分が適切にできていれば、現状ではよいという評価でよいか。</p> <p>(事務局) 事務局としては、現状ではそのように考えている。</p> <p>(森委員) 同じく2(6)の「相談支援」は、様々な場面での日常の相談対応ということによいか。</p> <p>(事務局) そのとおりである。業務としては別のものであるため、今回は相談支援と障害児相談支援とに分けて案としている。</p> <p>(吉田委員長) 前回からの変更点で、2(3)の児童発達支援センターの運営において、「プログラムの内容」と「環境設定」を一つの項目にしたということであるが、内容としては異なるものと思われるが、どのような理由から一つにしたのか。</p> <p>(事務局) 児童発達支援センターのところは大切な部分ではあるが、全体を見ると、他の項目に比べてやや内容が細分化されているように思われるため、案としては一つにまとめている。また、全体の点数配分を見たときに、児童発達支援センターの配点が高くなっており、全体のバランスを考えて案を修正している。</p> <p>(吉田委員長) 後ほど提出書類についての検討もあるが、プログラムと環境設定は、作成資料の様式としては一緒になっているのか。</p> <p>(事務局) 様式7では、プログラム、環境設定と項目立てはしていないが、取組の概要として、プログラム、指導室の設定等をカッコ書きしており、それらを含んで記載していただく様式案となっている。</p> <p>(森委員) 2(2)の「外来グループ」は、ひろば事業を含むものであるのか。</p> <p>(事務局) 外来グループは、診療として行う、診療報酬の対象となるグループが対象である。法人、センターによって外来グループの設定内容は異なるが、今後、順次実施していくこととしているひろば事業は無料のグループであり、外来グループには含まれない。</p> <p>(森委員) 外来グループを行っているセンターと行っていないセンターがあるのか。</p> <p>(事務局) グループの設定はセンターによって異なるためご確認いただきたいが、外来グループの実施は6センター共通である。</p> <p>(小塚委員) 「ひろば事業」についての評価はどこに入るのか。</p> <p>(事務局) 現在は一部のセンターで自主的なものを含めて実施されているが、ひろば事業は市として順次実施していく予定のものであり、現状では全てのセンターにあるものではない。そのため、今回の評価基準の中には入れていない。なお、実施の方向性は決まっているものであり、事業計画の様式の中では、センター全体のところから今後大切にしていくことを記載する項目もあるので、現指定管理者のほうで取組の考え方などがあればそこに記載されることもあると思う。</p> <p>(吉田委員長) ひろば事業は、初診待ちの方たちに対してというものなのか。</p> <p>(事務局) 最初に必ず初診を行うということではなく、ひろば事業などにより、速やか</p>
--	---

に支援を開始しようというものである。

(吉田委員長) 今のところは必ず行わなければいけないものではないと理解した。効果はあると聞いている。

(森委員) この部分の保護者の評価、期待は大変高いと思う。かなり意識が変わってくるころかと思う。

(吉田委員長) 評価に当たっては、前回、財務状況については上甲委員の話を伺った。各委員の専門分野を活かした意見交換もしたいと思う。

評価基準については、案(資料2)のとおりとしてよいか。

(全委員) 異議なし。

### (3) 選定基準について

事務局から案(資料3)について説明

#### 【主な意見・質疑】

(上甲委員) 6割1分以上、2割1分以上という数字は、これ自体はどのような意味があるのか。

(事務局) 評価基準では、5点、6点が「普通」となっており、「普通」を上回る評価が必要であろうという意味合いである。6割を超えるという考え方になるが、それを数字として示すものとして6割1分以上としている。2割1分以上も、同様に、評価基準の大項目で「不良・不適切」でないことが必要であろうという意味合いである。

(吉田委員長) 本当に良くない、ダメだと思ったら1点か2点をつける。この取組でよいであろうということであれば6割以上をつけていくことを頭に入れて採点していくということであると思う。「6点を超える」よりは、「6割1分以上」のほうが分かりやすいように思う。

選定基準については、案(資料3)のとおりとしてよいか。

(全委員) 異議なし。

### (4) 現指定管理者の提出書類について

事務局から案(資料4)について説明

#### 【主な意見・質疑】

(吉田委員長) 様式4の別表の1、苦情解決制度について、件数のみでなく、解決しなかったとか第三者委員が入って解決したとか、結果についても記載があったほうがよい。

(小坪委員) 第三者評価の保護者向けのアンケートの回収は評価機関が行っているのか。センター側に回答者が分かることはないか。

(事務局) 評価機関が行ったものである。回答者が分かることはない。

(吉田委員長) 様式5の研修については、どのような研修を行ったのかだけでなく、参加人数の記載もあったほうがよい。

(吉田委員長) 各様式の枚数、フォントについて確認しておきたい。

(事務局) 様式の案では、それぞれの末尾に両面1枚、片面1枚などの指示をしている。また、作成の依頼の際には、文字のポイントを設定よりも小さくしないよう指

示する予定である。

(吉田委員長) そのほうが要点を掴んで書いてもらえることになると思う。

(上甲委員) 様式20の年度別内訳の様式、支出の人件費のところ、「産休・育休・欠員等代替非常勤職員人件費」と「その他の非常勤職員人件費」の内訳があるが、内訳は以前からあったのか。どういう意味合いか。

(事務局) 以前からあったもので変更はしていない。趣旨としては、常勤職員の欠員や産休・育休等の代替の非常勤職員と、独自の取組や市の取組などの目的を持った非常勤職員の内訳を分けることで、運営の状況を少しでも知ることができるのではないかという意味合いである。

(上甲委員) 雇用理由が途中で変わることもあるなど、分けがなかなか難しいのではないかとも思う。また、この非常勤の人件費の額は少ないほうがよいのかと思ったりもするが、意図を持って内訳を設けているということか。

(事務局) 収支状況を見るだけであれば内訳は不要かもしれないが、先ほどお話をしたとおり、基本の職員数を配置するための非常勤職員と、何かそれ以外の目的を持った非常勤職員の内訳があったほうが、センターの運営を少しでも垣間見えるのではないかということで、内訳を設けているというのが案の趣旨である。

(上甲委員) 承知した。

(吉田委員長) No.22の自己評価については、センターとして一つ提出ということでしょうか。誰が記入するかは指示はするのか。

(事務局) 今のところ、誰が記入するかは指示をすることは考えていない。1部、センター長や法人が確認した上で提出されるものと思う。

(吉田委員長) そうであれば、プレゼンテーション・ヒアリングのときに、なぜこの評価をしたのかを聞くこともできる。こちらが思っている以上に評価が高い、又は反対に低いこともあると思う。文面のみではこちらがセンターの努力に気づかない場合などもあるかもしれない。

(小塚委員) 評価基準の2の(1)の⑤に「医療的ケアが必要な子ども等への支援が適切に行われているか」があるが、様式の各事業実績調書の中には直接的には出て来ない。いずれかのところに書かれるであろうという想定か。

(吉田委員長) 医療的ケア児のことは、今力を入れてやっていることであると思うので、項目があったほうがよいと思う。

(事務局) 様式4の別表に項目を追加することもできると思う。

(吉田委員長) それでお願いしたいと思う。

(森委員) 評価基準の2(1)⑤、「子どものライフステージを意識し、支援が適切に行われているか」については、なかなかできていないがために「切れ目のない支援」という言葉が障害児のところですつと書かれている。この部分をどう捉えているのかは伺っておきたいと思っている。そこが計画相談のところなどに記載されるのであれば追加は不要であると思うがどうか。

(吉田委員長) ライフステージの部分を様式に書くことはなかなか難しいと思うが、全体の中、支援計画の中にそのような要素が入っているのかは見たいと思う。評価項目も事業者に見える形になるので、こういうこともきちんと書かなければいけないというメッセージにもなっていると思う。難しいからこそ課題になっていると

思うが、全体の中で見られるとよいと思っている。

(森委員) 地域療育センターは小学校期までで終わってしまうが、最近は、子どものときに早期療育などを受けてきたにもかかわらず、大人になって強度行動障害がなぜこんなに増えていたりするのかなどの話もあり、改めて幼児期から見直さないといけない時期に来ているのではないかという感じもしている。

(吉田委員長) ヒアリングでその点を質問することができるし、横断的な話も伺えるのではないかと思う。もちろん、項目を追加することもできる。

(森委員) 全体の中で読み取ってみて、理解できない点があればヒアリングで質問したいと思う。

(吉田委員長) その子の人生をイメージして、どう幼児期を過ごしてもらうのかはとても大切なこと。障害のあるお子さんが大人になっていく社会は以前からは少しずつ変わってはいるものの、障害者の社会的位置付けはなかなかインクルーシブな感じにはなっていない。地域療育センターのみにとどまる話ではないが、取り組んでいかれるとよいと思っている。

事務局から修正点の確認をお願いしたい。

(事務局) ①様式4の別表、苦情解決制度のところ是件数のみでなく結果に関する記載を追加、②様式5、研修について参加人数を追加、③様式4の別表に「医療的ケア児についての取組」の項目を追加の3点。

(吉田委員長) 現指定管理者の提出書類については、案(資料4)に、この3つの修正を加えることでよいか。

(全委員) 異議なし。

#### (5) 統計資料について

事務局から案(資料5)について説明

#### 【主な意見・質疑】

(吉田委員長) 「訓練指導等件数」は年間の総件数か。

(事務局) そうである。心理職、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による各実施件数を記載の予定である。

(吉田委員長) 以前、センターの運営協議会に参加していたときに、訓練をもっとやってほしいという要望がかなりあったように思うがどうなのか。一人のお子さんに対して週何回行ったというような数字もあったほうがよいのか。

(森委員) 一人ひとりのお子さんによって必要な回数は異なる。保護者の不安から、多くの回数を希望するということもあるかもしれない。

(事務局) 基本的には、訓練等は医師の指示で行うものであるので、保護者の方のお気持ちは分かるが、多いから良い、少ないから悪いと一概には言えないと事務局では考えている。

(森委員) センターの通園部門では、通園の時間内に作業療法士が来て行うこともあり、必ずしも1対1対応ばかりではないと思う。そこをどのように保護者が理解しているのかにもよると思う。

(事務局) なかなか評価が難しいところもあると思うが、著しく少ないなどがあれば、どうしてそのようになっているのかなどを見ていただけたらと思う。

(吉田委員長) 訓練についても保護者の満足度も大切であり、適切な回数を行っていても保護者に分かるように説明がないと不安に思ったりすると思う。その辺りも大事かと思う。それはアンケートの結果にも出てくるのではないかと思う。

学校支援の状況については、どのような数字になるのか。それぞれ担当区域があると思うが、回数は全学校を合わせての回数になるのか。

(事務局) 今のところ、まとめた回数を予定している。

(吉田委員長) 学校の風土もそれぞれ異なると思う。あまり相談、依頼をしていない学校もあると思うが、そこを積極的に開拓していくこと、支援する学校を増やすことも大事であると思う。一つの学校にいっぱい行っているのと、学校数が多いのとは、同じ回数でも内容は異なると思う。

(森委員) 今でも学校からの依頼に基づいて実施しているのか。

(事務局) そうである。毎年、各学校に事業の案内を配付し、お知らせをしている。

(森委員) 学校長によっても考え方の違いはあるように思う。

(吉田委員長) そこをどのように突破するのも大事であると思う。残念ながら、一般の先生方の理解はまだまだであるように思う。どのくらいの学校に回れているのかも努力の成果になってくるように思う。その辺りの数字がとれるのであればお願いしたいと思う。

(事務局) 数字については改めて確認してみる。統計とは異なるが、様式 17 の関係機関支援に実施状況は盛り込まれてくるのではないかと思う。必要であればヒアリングで意欲も含めて確認していただければと思う。

(吉田委員長) 市としても数字は把握していただけたらと思う。以前、センターの運営協議会で、担当区域に何校あって、そのうち何校に行ったとか、これから増やすように頑張りますといった話もあって印象に残っている。そういった支援が入ると、学校内でのお子さんの環境も違ってくると思う。

(事務局) 再度確認してみる。可能であれば、のべ回数のほかに実学校数も含めて提供したい。

(吉田委員長) 統計資料は後から追加で事務局にお願いすることも可能か。

(事務局) 可能である。作成できるものはできる限り提供したい。

(吉田委員長) 統計資料については、案(資料5)のとおりとし、あとは追加のご希望があれば事務局に連絡していただくことでよいか。

(全委員) 異議なし。

## 7 選定スケジュールについて

事務局から案(資料6)について説明

意見・質疑なし

(吉田委員長) 選定スケジュールについては、案(資料6)のとおりとしてよいか。

(全委員) 異議なし ※センター見学等については後日日程調整

事務局から案(資料6-2)について説明

### 【主な意見・質疑】

(事務局) プレゼンテーションの際の説明者の人数、説明の方法(資料配付やプロジェ

	<p>クタの使用等)については、前回の取扱いを参考に、会場の広さに応じて事務局で調整させていただくことでよいか。</p> <p>(吉田委員長) 事務局からの提案どおりでよいか。</p> <p>(全委員) 異議なし。</p> <p>(吉田委員長) プレゼンテーションは、なるべく評価基準の項目の順に沿って行っていただけるとありがたい。そのほうが質問もしやすいと思う。</p> <p>(上甲委員) 当日は、仮の採点をして来て、プレゼンテーション、ヒアリング、意見交換により必要な修正を行い、採点を確定する手順と理解している。そのようにしたいと思う。</p> <p>(吉田委員長) そのほうがスムーズである。ご協力をお願いしたい。</p> <p>プレゼンテーション、ヒアリングの時間配分については、案(資料6-2)のとおりでよいか。</p> <p>(全委員) 異議なし。</p> <p>8 その他</p> <p>会議録については、事務局において案を作成した上で、全委員が確認して確定することとした。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員名簿</li> <li>・ 横浜市地域療育センター指定管理者選定委員会運営要綱</li> <li>・ 横浜市地域療育センター条例(抜粋)</li> <li>・ 地域療育センターの概要</li> <li>・ 資料1 評価方法・手段(案)</li> <li>・ 資料2 評価基準(案)</li> <li>・ 資料3 選定基準(案)</li> <li>・ 資料4 提出書類一覧(案) No.1~28</li> <li>・ 資料5 統計資料(案)</li> <li>・ 資料6 選定スケジュール(案)</li> <li>・ 資料6-2 プレゼンテーション、ヒアリングの時間配分について(案)</li> <li>・ 参考 前回選定時からの主な案の変更点</li> <li>・ 参考 第三者評価(例)</li> </ul> <p>特記事項</p> <p>なし</p>